Biz Clip調査レポート（第45回）

クラウドストレージ利用実態調査2023

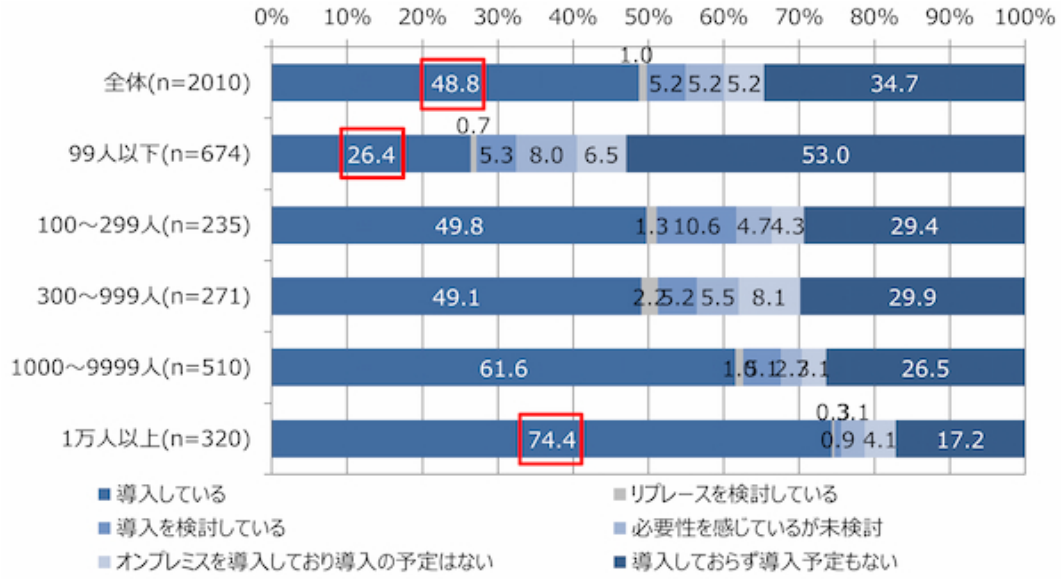
2024.01.17

企業競争力の確保を考える上で、いまやデータ活用は欠かせないファクターとなりつつある。日常の業務遂行の上でも、データをいかに効率的に管理・保管するかも企業にとって重要事項となっている。その課題解決のうえで注目を集めるのが、クラウド上のデータ格納スペース「クラウドストレージ（オンラインストレージ）」の利用だ。その実態について、日経BPコンサルティングのアンケートシステムにて、同社保有の調査モニター2817人を対象に調査を実施した。

企業規模でクラウドストレージ導入に明暗も

まず社内におけるクラウドストレージ導入を聞いたところ、48.8％の企業が「導入済み」と回答。導入率を従業員規模別で見ると、99人以下の企業では26.4％。最も導入率が高い1万人以上の企業の74.4％と比べ48.0ポイント差となった。導入率トップの1万人以上の企業に続き、1000～9999人規模の企業が61.6％で続くなど、従業員規模が大きい企業ほど導入率が高い傾向がうかがえる（図1）。

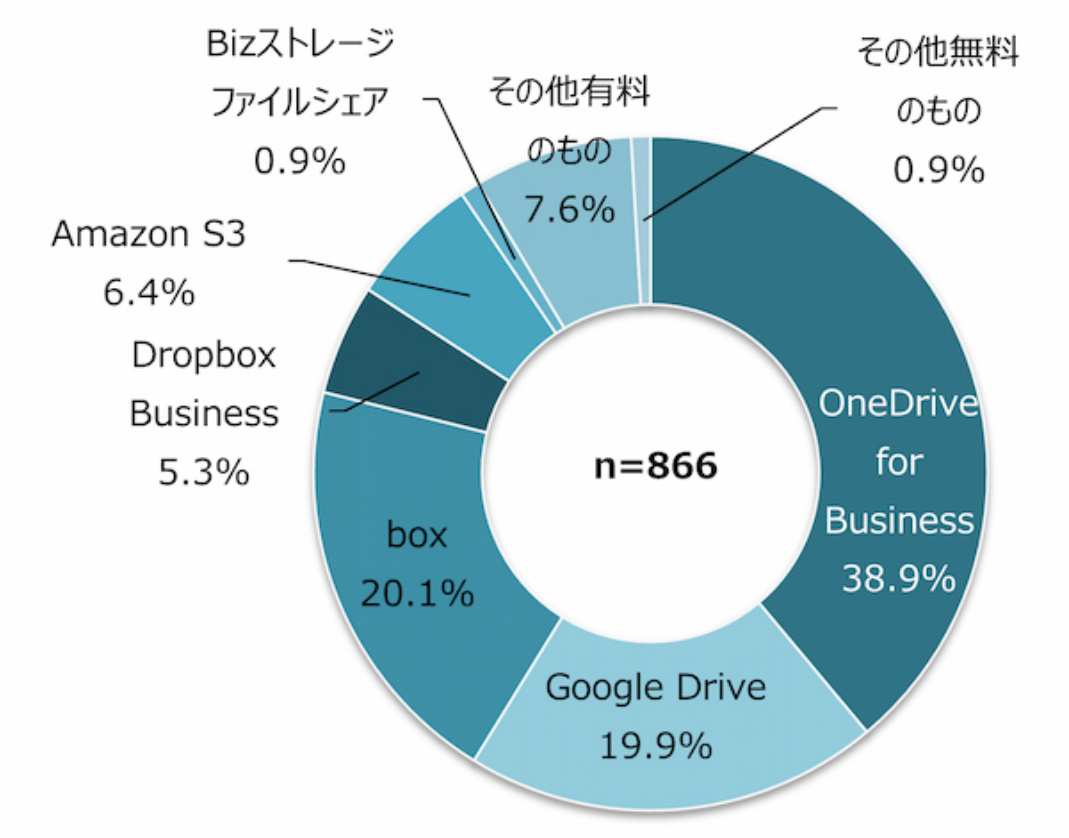
【図1 クラウドストレージ導入状況（従業員数別）】



「OneDrive」がビジネス利用1位に、他サービスも伸長

導入サービスについて聞いたところ、最も多く選択されたのが、「OneDrive for Business」(38.9%)で、2位が「Google Drive」の19.9%となった。その他、3位に「box」(20.1%)、という結果になった(図2)。この点、前回と比較するとOneDrive for Businessが7.8ポイント減少し、Google Driveが2.4ポイント、boxが5ポイントそれぞれ上昇している。

【図2 クラウドストレージの種類】



社内・社外を問わず「大容量データの共有」に高い需要… 続きを読む